

在宅介護実態調査結果報告書

令和2年8月

丸亀市

目次

1	基本調査項目（A票）	1
（1）	世帯類型	1
（2）	家族等による介護の頻度	1
（3）	主な介護者の年齢	2
（4）	介護のための離職の有無	3
（5）	在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	4
（6）	施設等検討の状況	8
2	主な介護者用の調査項目（B票）	9
（1）	主な介護者の勤務形態	9
（2）	主な介護者の方の働き方の調整の状況	10
（3）	主な介護者の就労継続の可否に係る意識	13
（4）	今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	14
3	要介護認定データ	18
（1）	年齢	18
（2）	性別	18
（3）	二次判定結果（要介護度）	19
（4）	サービス利用の組み合わせ	20
（5）	訪問系サービスの合計利用回数	24
（6）	通所系サービスの合計利用回数	25
（7）	短期系サービスの合計利用回数	26
（8）	障害高齢者の日常生活自立度	27
（9）	認知症高齢者の日常生活自立度	27

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

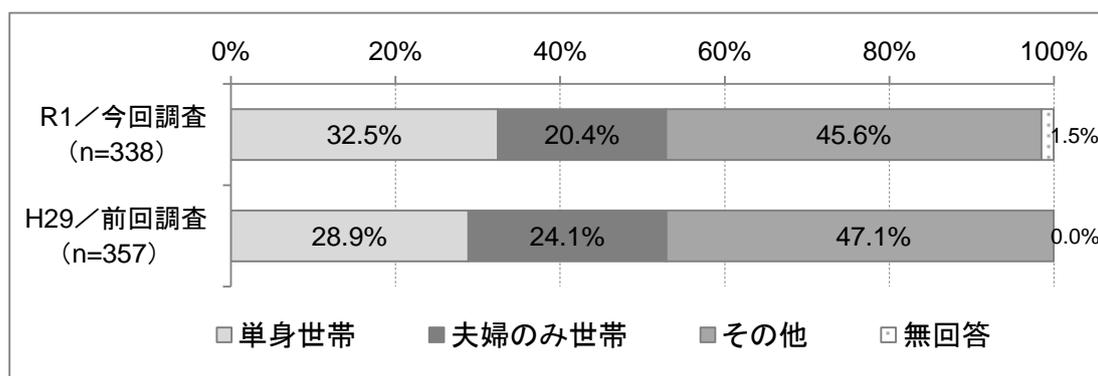
1 基本調査項目（A票）

（1）世帯類型

世帯類型については、「単身世帯」が32.5%、「夫婦のみ世帯」が20.4%、「その他」が45.6%となっています。

前回調査と比較すると、「単身世帯」が3.6ポイント増加しています。

図表 1-1 世帯類型（単数回答）

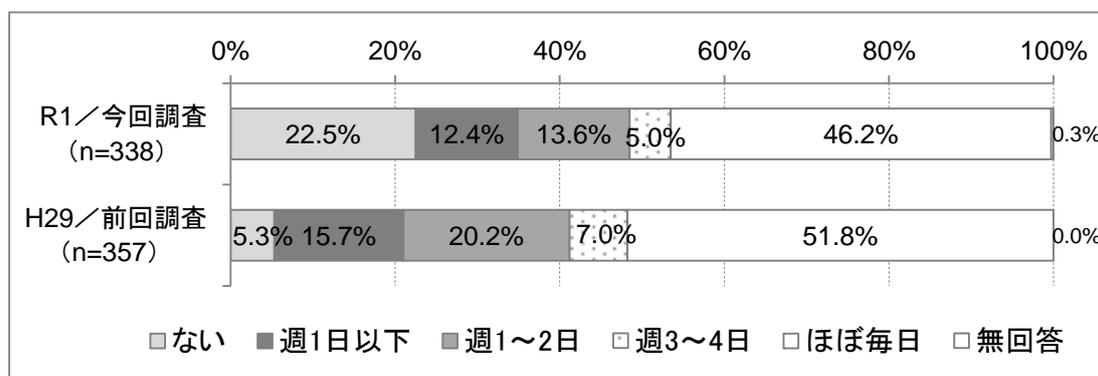


（2）家族等による介護の頻度

家族等による介護の頻度については、「ほぼ毎日」が46.2%と最も高く、次いで「ない」(22.5%)、「週1～2日」(13.6%)、「週1日以下」(12.4%)、「週3～4日」(5.0%)となっています。

前回調査と比較すると、家族等による介護の頻度が「ない」の割合が17.2ポイント大きく増加しています。

図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）

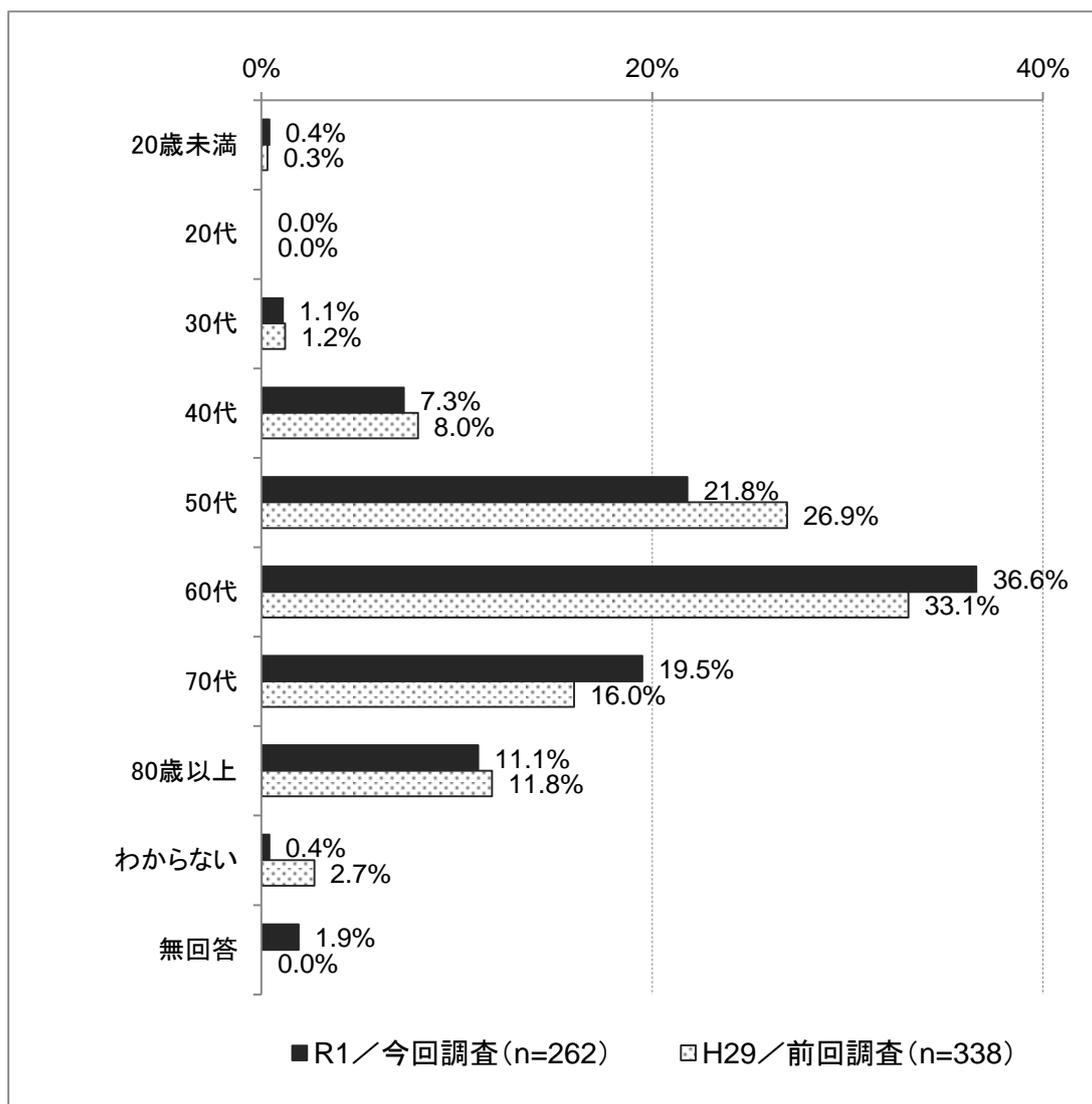


(3) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢については、「60代」が36.6%と最も高く、次いで「50代」が21.8%、「70代」が19.5%、「80歳以上」が11.1%となっています。また、主な介護者の年齢は60歳以上が、全体の67.2%を占めています。

前回調査と比較すると、「50代」が5.1ポイント減少し、「60代」、「70代」の介護者の割合が増加しています。

図表 1-3 主な介護者の年齢（単数回答）



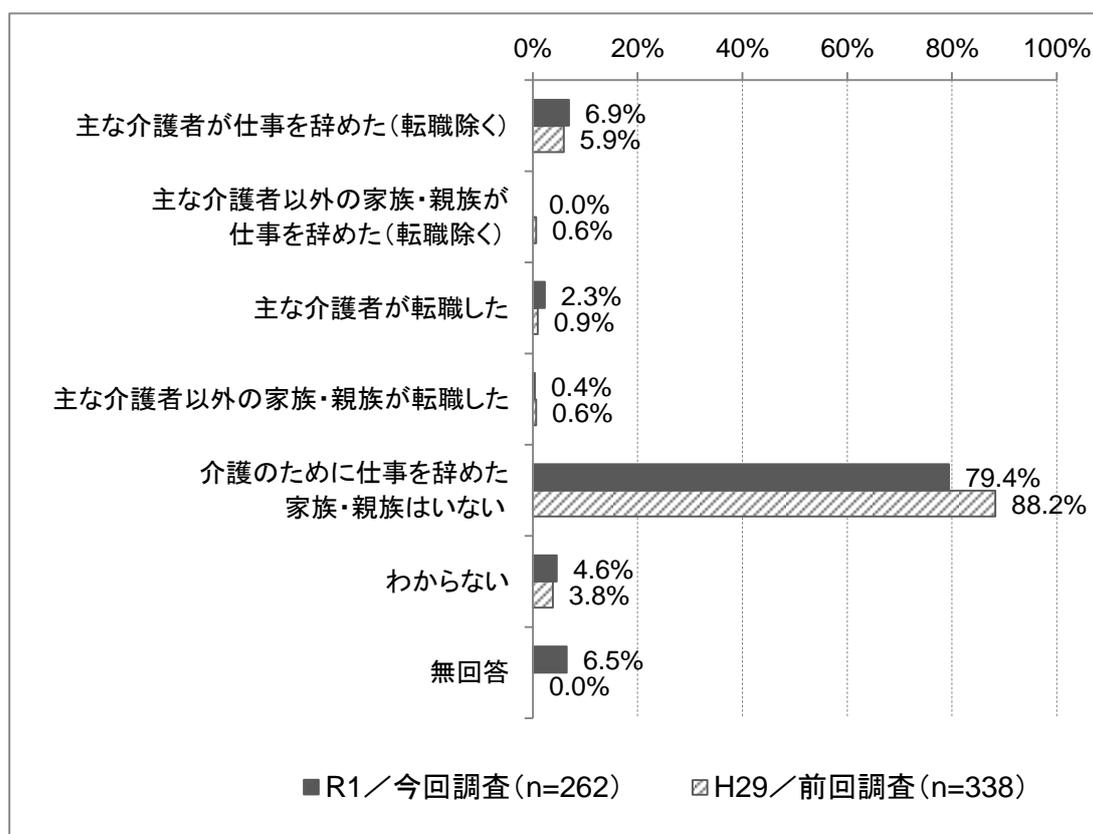
(4) 介護のための離職の有無

介護のための離職の有無をみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が6.9%、「主な介護者が転職した」が2.3%、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」が0.4%となっており、介護のために仕事を辞めた、または転職した介護者は、1割未満と低くなっています。

また、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は79.4%となっています。

前回調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が8.8ポイント減少し、主な介護者が仕事を辞めた、または転職した割合がわずかに増加しています。

図表 1-4 介護のための離職の有無（複数回答）

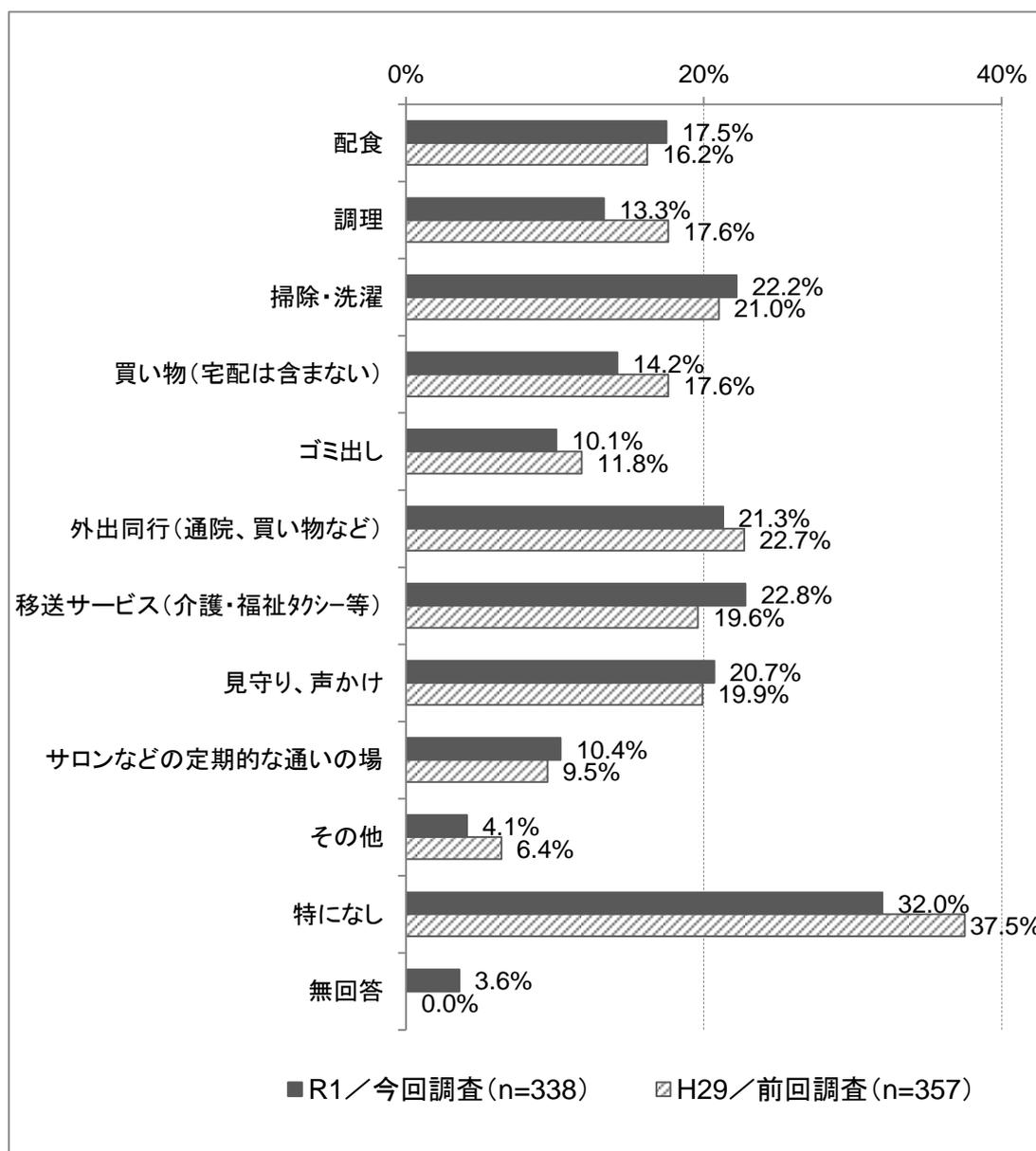


(5) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

在宅生活継続のために充実が必要な支援・サービスについては、「移送サービス」が 22.8%と多く、次いで「掃除・洗濯」(22.2%)、「外出同行」(21.3%)、「見守り、声かけ」(20.7%)、「配食」(17.5%) などとなっています。また、「特になし」は 32.0%となっています。

前回調査と比較すると、「調理」が 4.3 ポイント、「買い物」が 3.4 ポイント減少し、「移送サービス」が 3.2 ポイント増加しています。

図表 1-5 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）

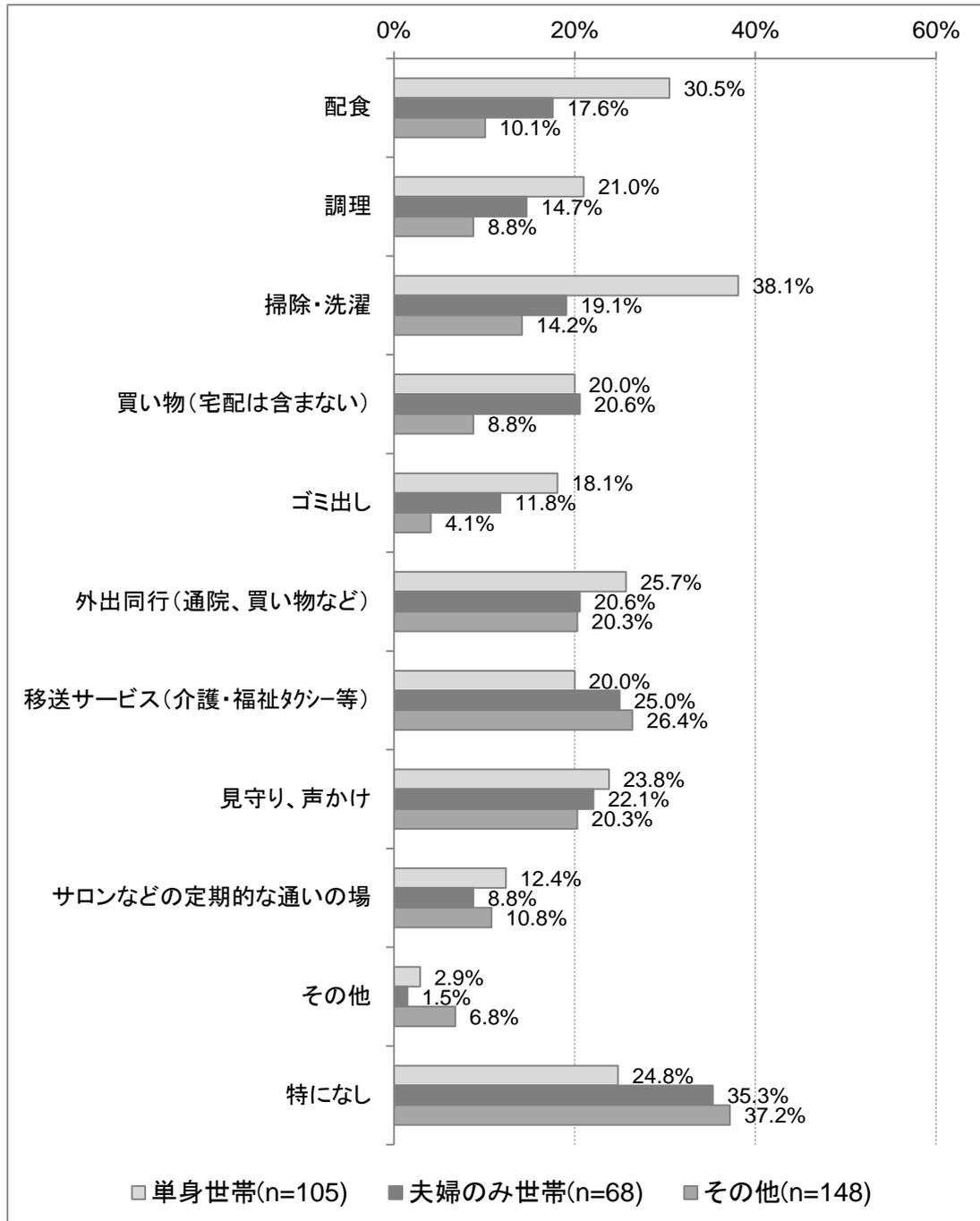


【世帯類型別】

世帯類型別にみると、単身世帯では、「掃除・洗濯」が38.1%と最も多く、次いで「配食」(30.5%)、「外出同行」が25.7%となっており、家事や外出時の支援を必要と感じる人が多くなっています。

夫婦のみ世帯、その他の世帯では、「移送サービス」、「外出同行」、「見守り、声かけ」などが多くなっています。また、これらの世帯では、「特になし」が最も多くなっています。

図表 1-6 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



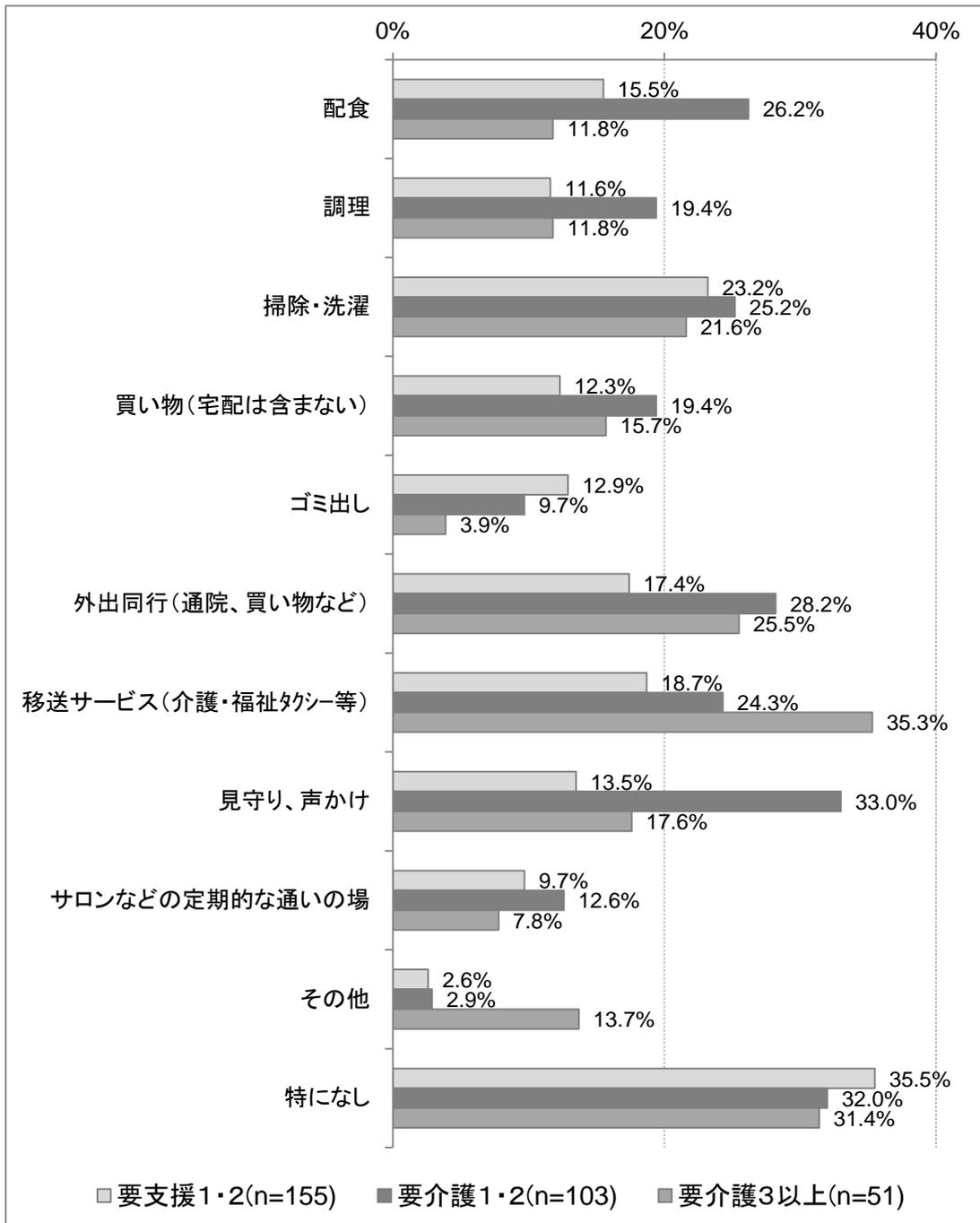
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1・2では「掃除・洗濯」、や「移送サービス」、「外出同行」など移動に関する支援の割合が多くなっています。

要介護1・2では「見守り、声かけ」が最も多く、次いで「外出同行」、「配食」となっています。また、「見守り、声かけ」、「配食」、「調理」などの割合は、他の要介護度に比べて割合がやや突出しています。

要介護3以上では「移送サービス」が最も多く、また、「外出同行」、「掃除・洗濯」なども多くなっています。

図表 1-7 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）



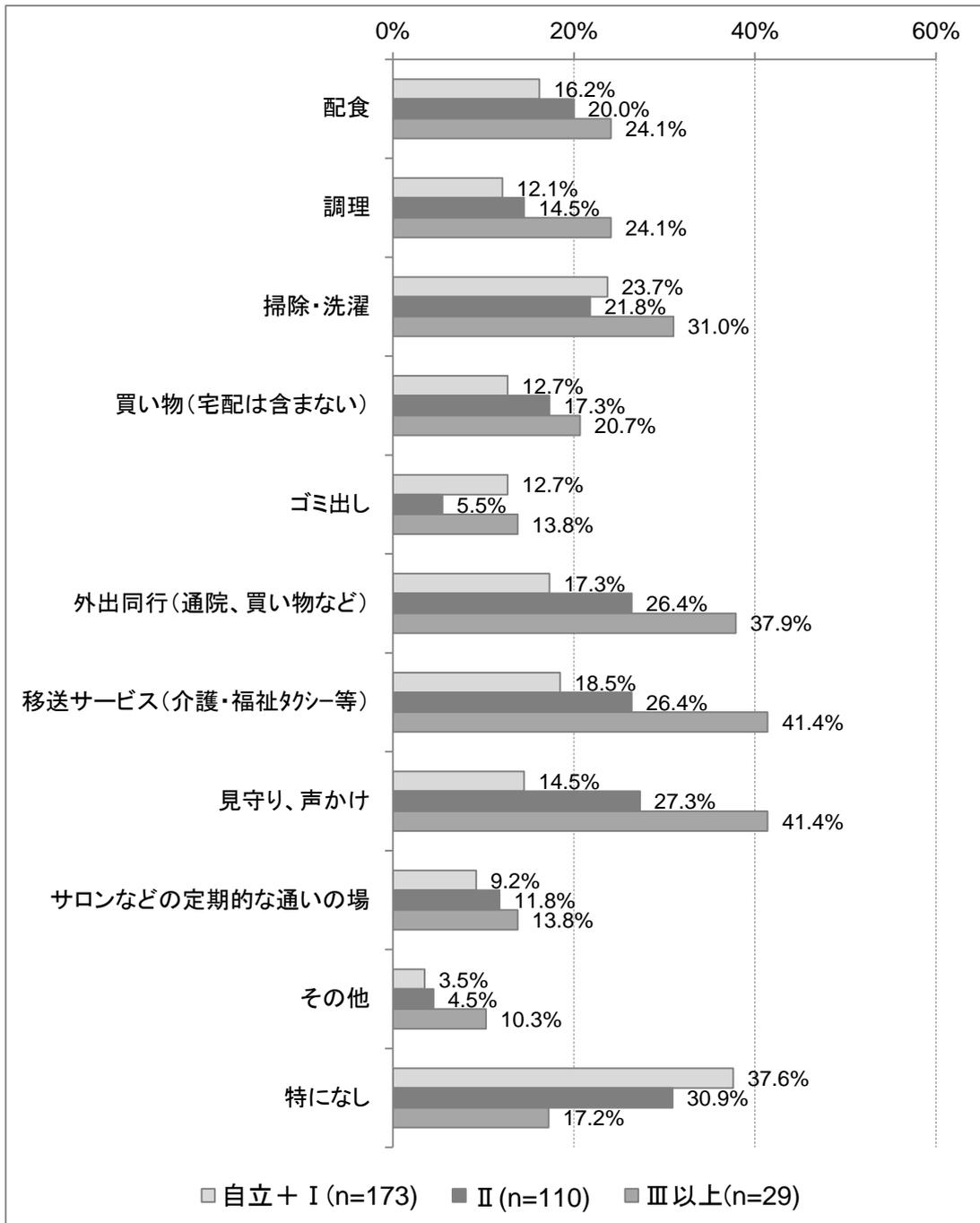
【認知症自立度別】

認知症自立度別にみると、自立+Ⅰでは、「掃除・洗濯」、や「移送サービス」、「外出同行」など移動に関する支援の割合が多くなっています。

自立度がⅡでは、「見守り、声かけ」や「移送サービス」、「外出同行」などが多くなっています。

自立度がⅢ以上では「移送サービス」、「見守り、声かけ」が4割を超えており、「外出同行」、「掃除洗濯」も3割を超えています。

図表 1-8 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）

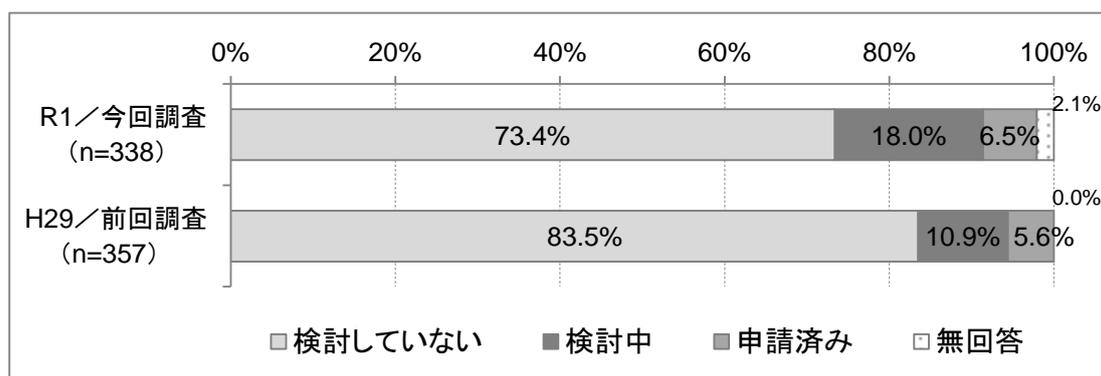


(6) 施設等検討の状況

施設等の検討状況については、「検討していない」が73.4%と最も高く、次いで「検討中」が18.0%、「申請済み」が6.5%となっています。

前回調査と比較すると、「検討していない」が10.1ポイント減少し、「検討中」が7.1ポイント増加しています。

図表 1-9 施設等検討の状況（単数回答）

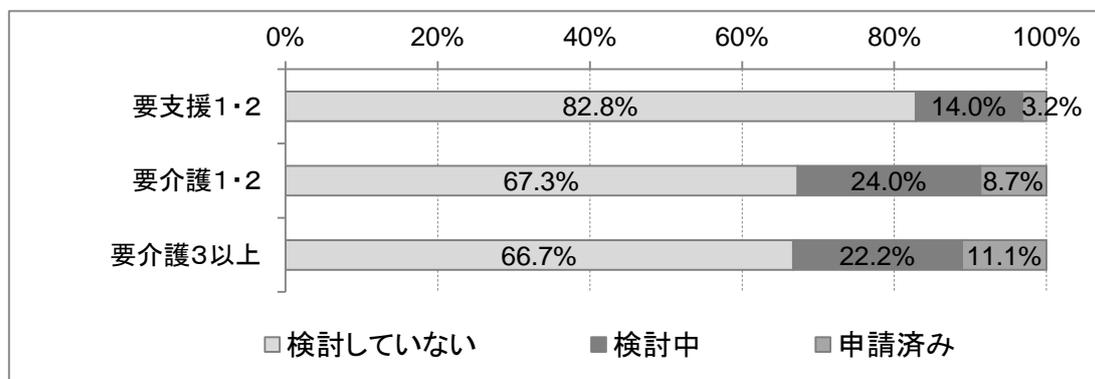


【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1・2では「検討していない」が82.8%と大半を占めています。一方、要介護1・2では、「検討していない」は67.3%に減少し、「検討中」は24.0%、「申請済み」は8.7%となっています。

要介護3以上では「検討していない」は66.7%、「検討中」は22.2%となっており、要介護1・2と大差はみられませんが、「申請済み」は11.1%とやや高くなっています。

図表 1-10 要介護度別・施設等検討の状況（単数回答）



2 主な介護者用の調査項目（B票）

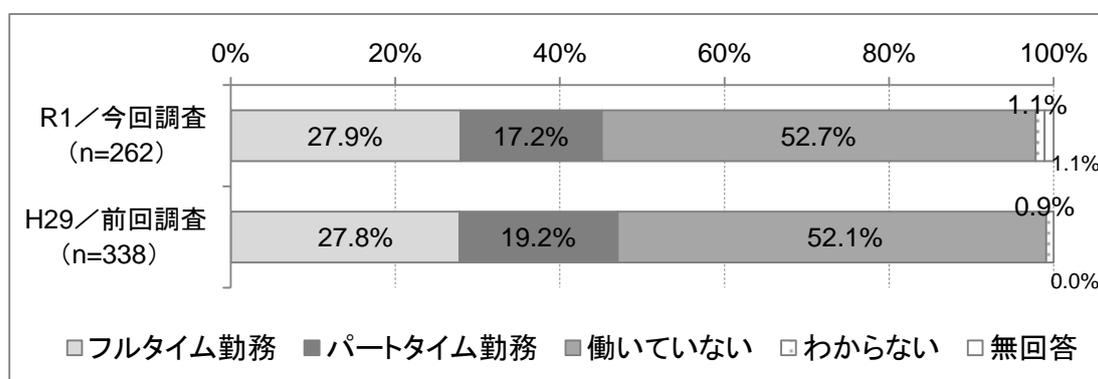
（1）主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態については、「フルタイム勤務」が27.9%、「パートタイム勤務」が17.2%となっており、フルタイムで働いている人が10.7ポイント上回っています。

また、「働いていない」は52.7%と5割を超えています。

前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。

図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



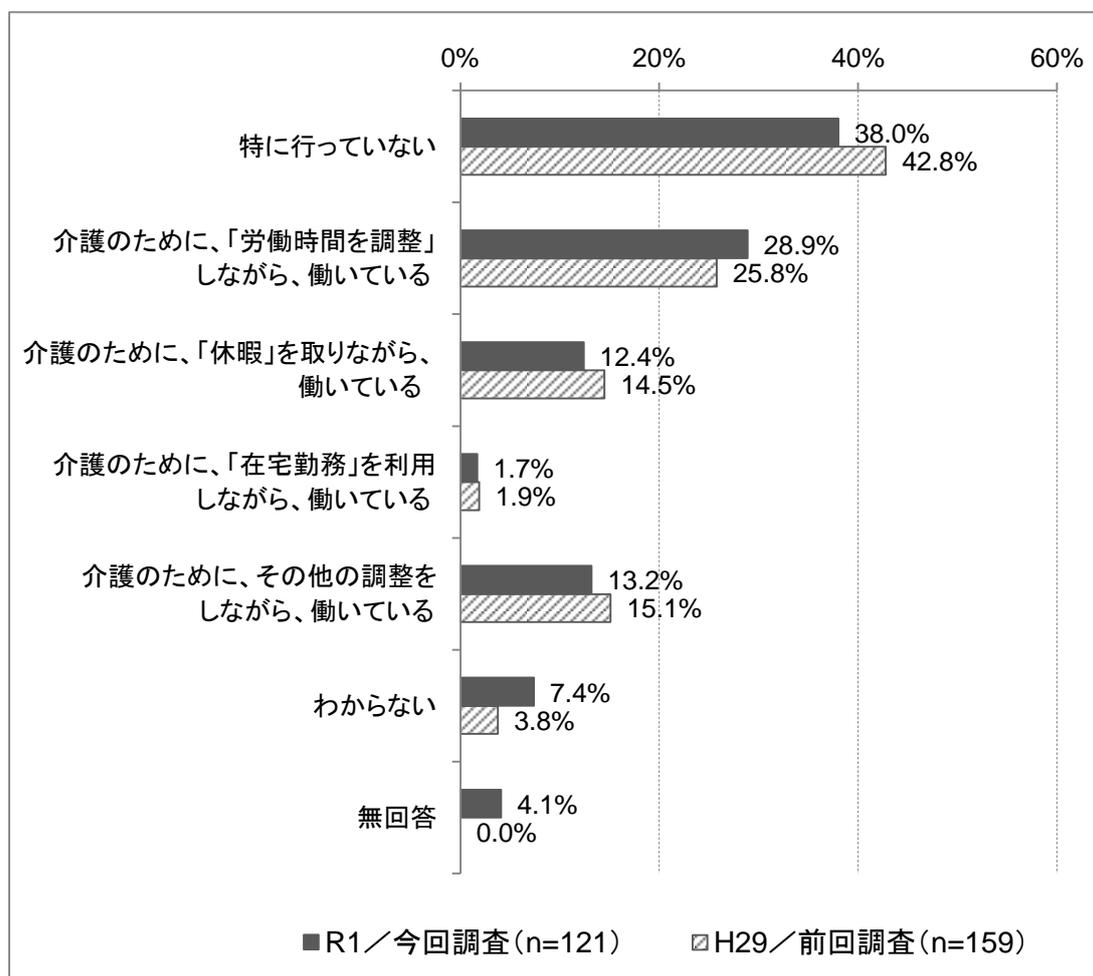
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

主な介護者の働き方の調整状況については、「介護のために『労働時間を調整』しながら、働いている」が28.9%、「介護のために、その他の調整をしながら、働いている」が13.2%、「介護のために『休暇』を取りながら、働いている」が12.4%、「わからない」が7.4%、「介護のために『在宅勤務』を利用しながら、働いている」が1.7%となっています。

また、「特に行っていない」は38.0%と最も多くなっています。

前回調査と比較すると、「介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」が3.1ポイント増加しています。

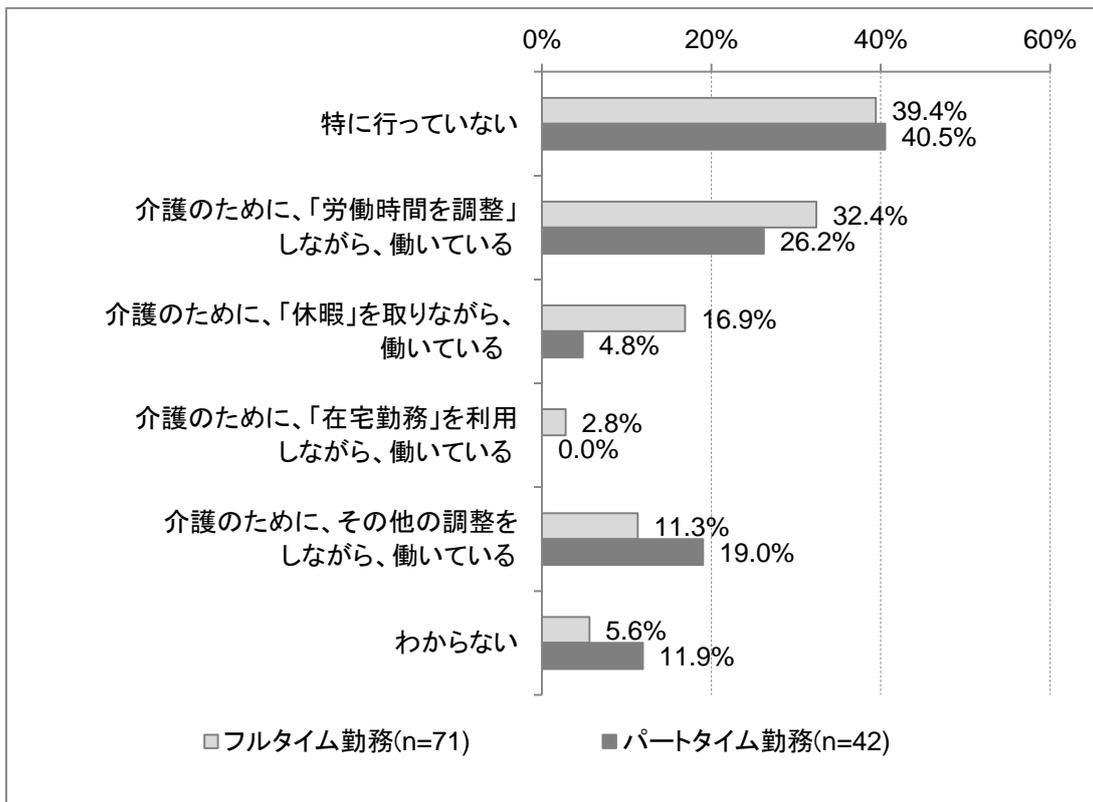
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



【就労状況別】

就労状況別にみると、働き方の調整を行っている人の中では、勤務形態に関わらず、「介護のために『労働時間を調整』しながら、働いている」が最も多くなっています。次いで、フルタイム勤務者では、「介護のために、『休暇』を取りながら、働いている」（16.9%）となっているのに対し、パートタイム勤務者では、「介護のために、その他の調整をしながら、働いている」が19.0%となっており、働き方の調整の仕方に違いがみられます。

図表 2-3 就労状況別・主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



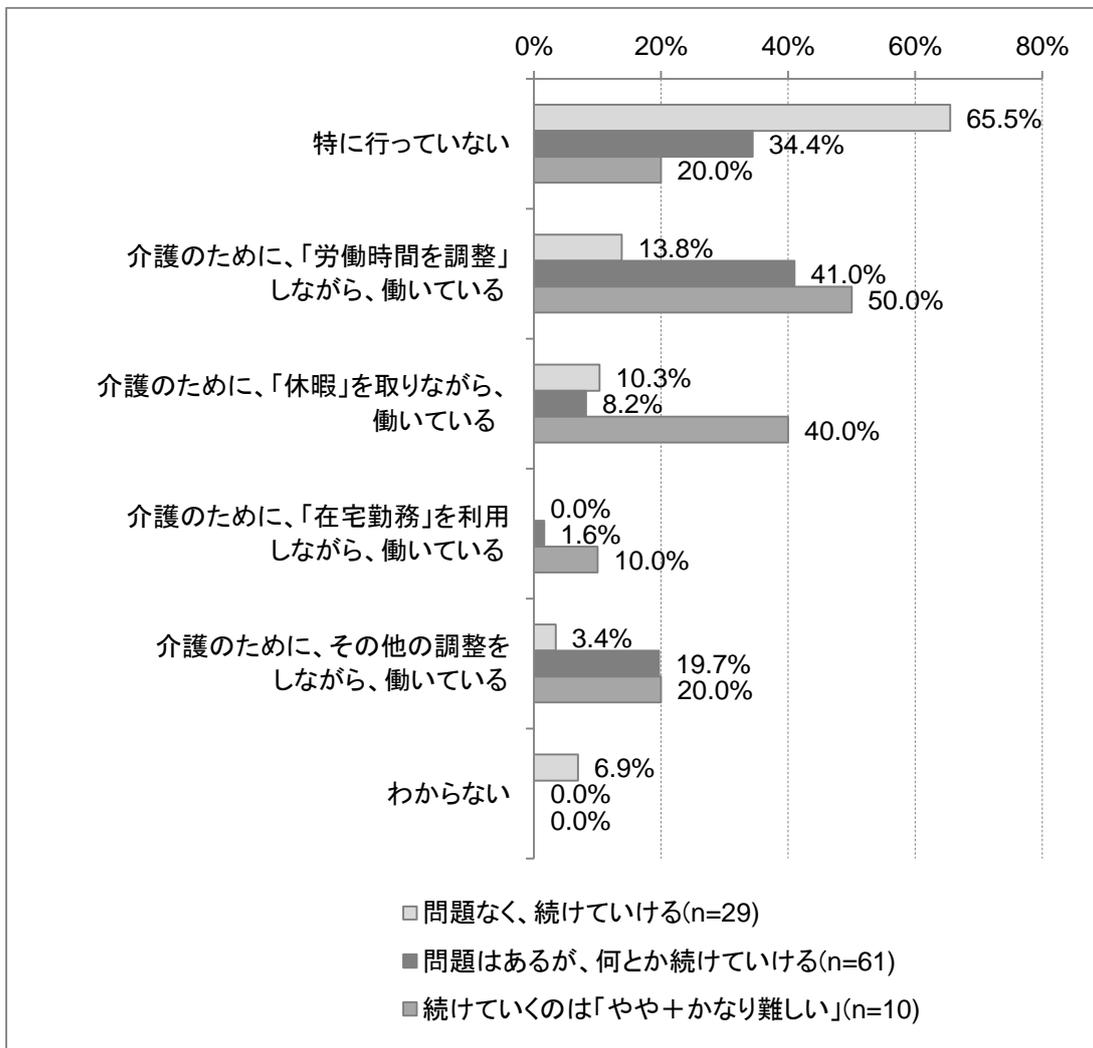
【就労継続見込み別】

就労継続見込み別にみると、問題なく、続けていける人では「特に行っていない」が65.5%と最も多くその割合は突出しています。

一方、問題はあるが、何とか続けていける人及び続けていくのは「やや+かなり難しい」人では「介護のために『労働時間を調整』しながら、働いている」がそれぞれ最も多くなっています。

また、続けていくのは「やや+かなり難しい」人では「介護のために、『休暇』を取りながら、働いている」が40.0%となっており、その割合は突出しています。

図表 2-4 就労継続見込み別・主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）
（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



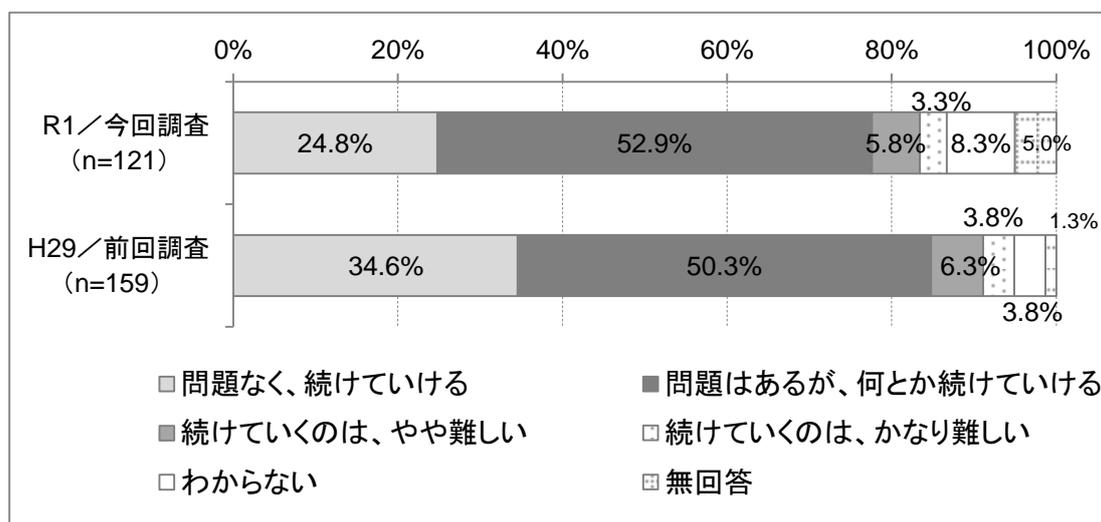
(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

主な介護者の就労継続の可否に係る意識については、「問題はあるが、何とか続けていける」が52.9%と最も高く、5割を超えています。次いで、「問題なく、続けていける」が24.8%を占め、就労継続が可能だと考える人の割合は、77.7%となっています。

一方、「続けていくのは、やや難しい」が5.8%、「続けていくのは、かなり難しい」が3.3%となっており、就労継続が難しいと考える人の割合は、9.1%と1割未満となっています。

前回調査と比較すると、就労継続が可能だと考える人の割合は、前回調査での84.9%から7.2ポイント減少しています。また、就労継続が難しいと考える人の割合は、前回と大差はみられません。

図表 2-5 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

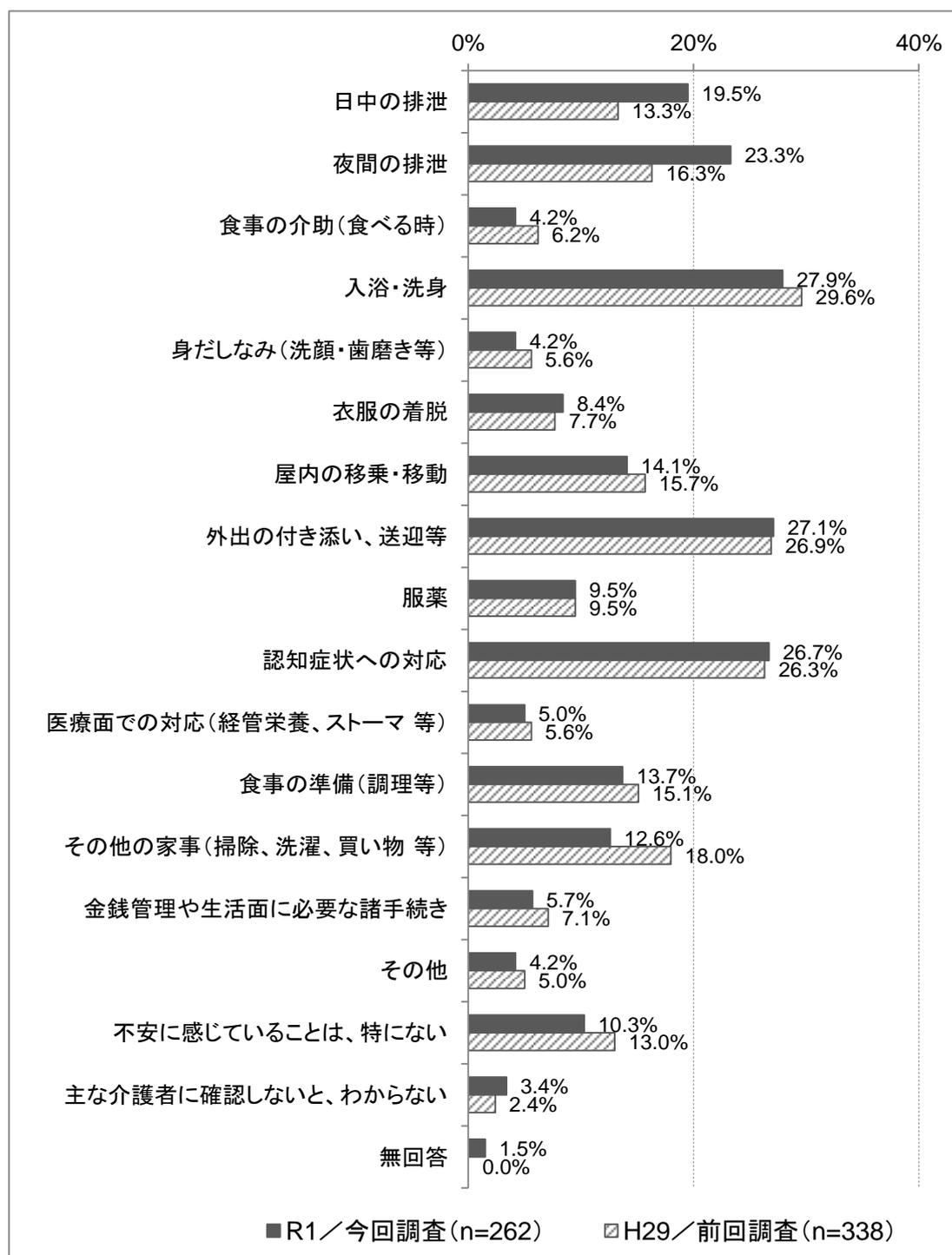


(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護については、「入浴・洗身」が27.9%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(27.1%)、「認知症状への対応」(26.7%)、「夜間の排泄」(23.3%)、「日中の排泄」(19.5%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「日中の排泄」、「夜間の排泄」が6ポイント以上増加しています

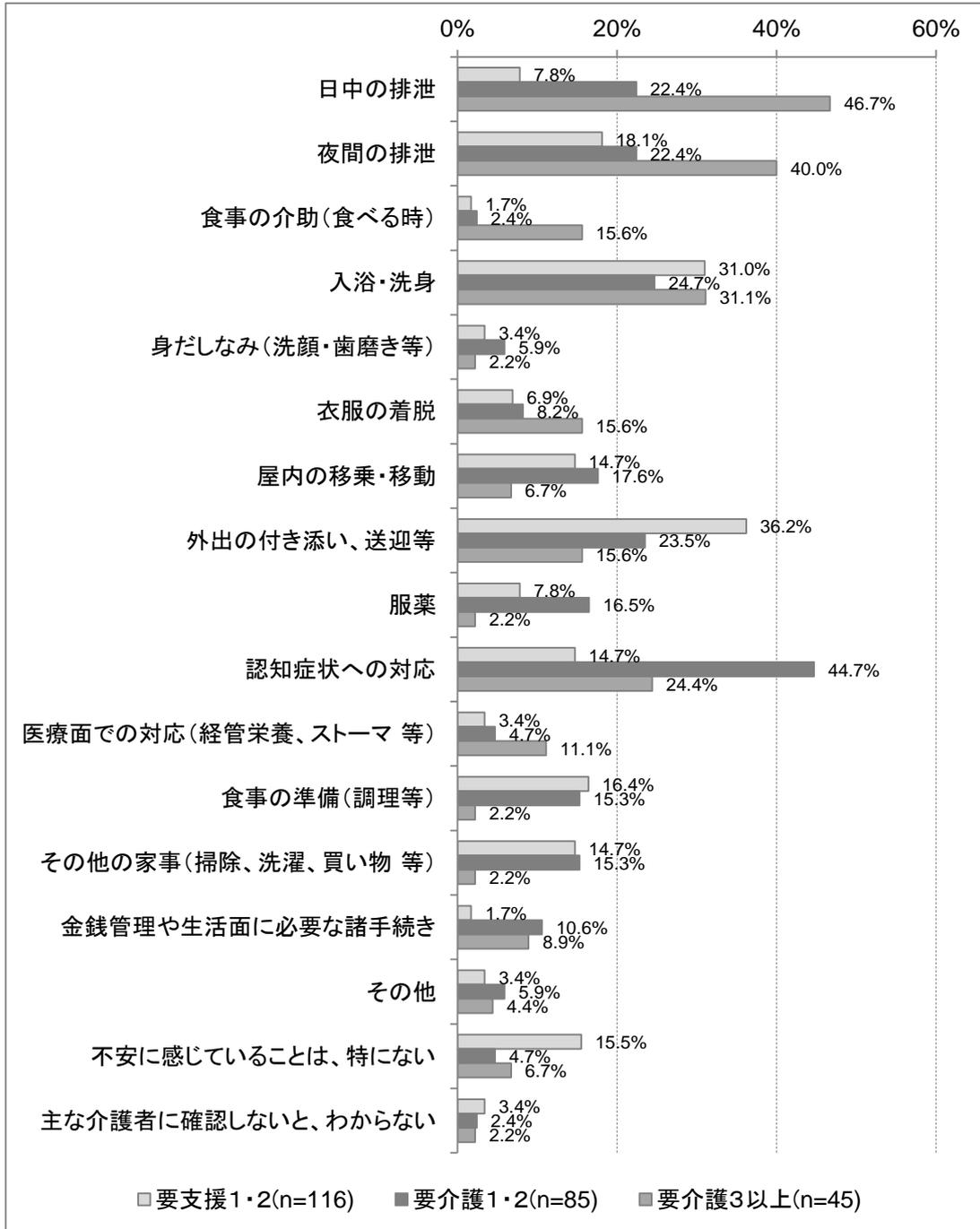
図表 2-6 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」、「入浴・洗身」、要介護1・2では「認知症状への対応」、要介護3以上では「日中の排泄」、「夜間の排泄」などがそれぞれ多くなっています。

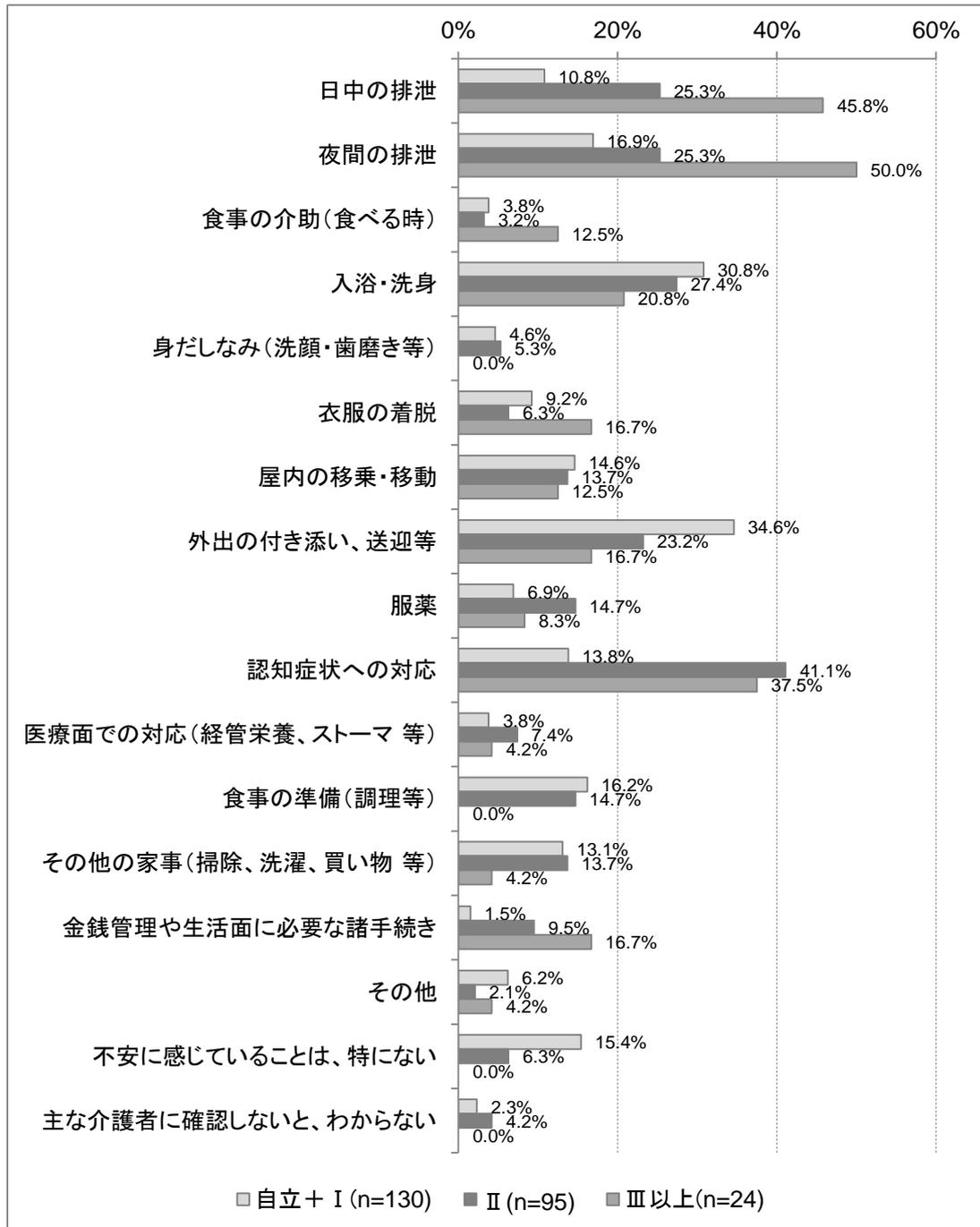
図表 2-7 要介護度別・主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



【認知症自立度別】

認知症自立度別にみると、自立+Ⅰでは「外出の付き添い、送迎等」、「入浴・洗身」、自立度Ⅱでは「認知症状への対応」、自立度Ⅲ以上では「日中の排泄」、「夜間の排泄」などがそれぞれ多くなっており、上位の項目に関しては要介護度別の結果と同様の傾向となっています。

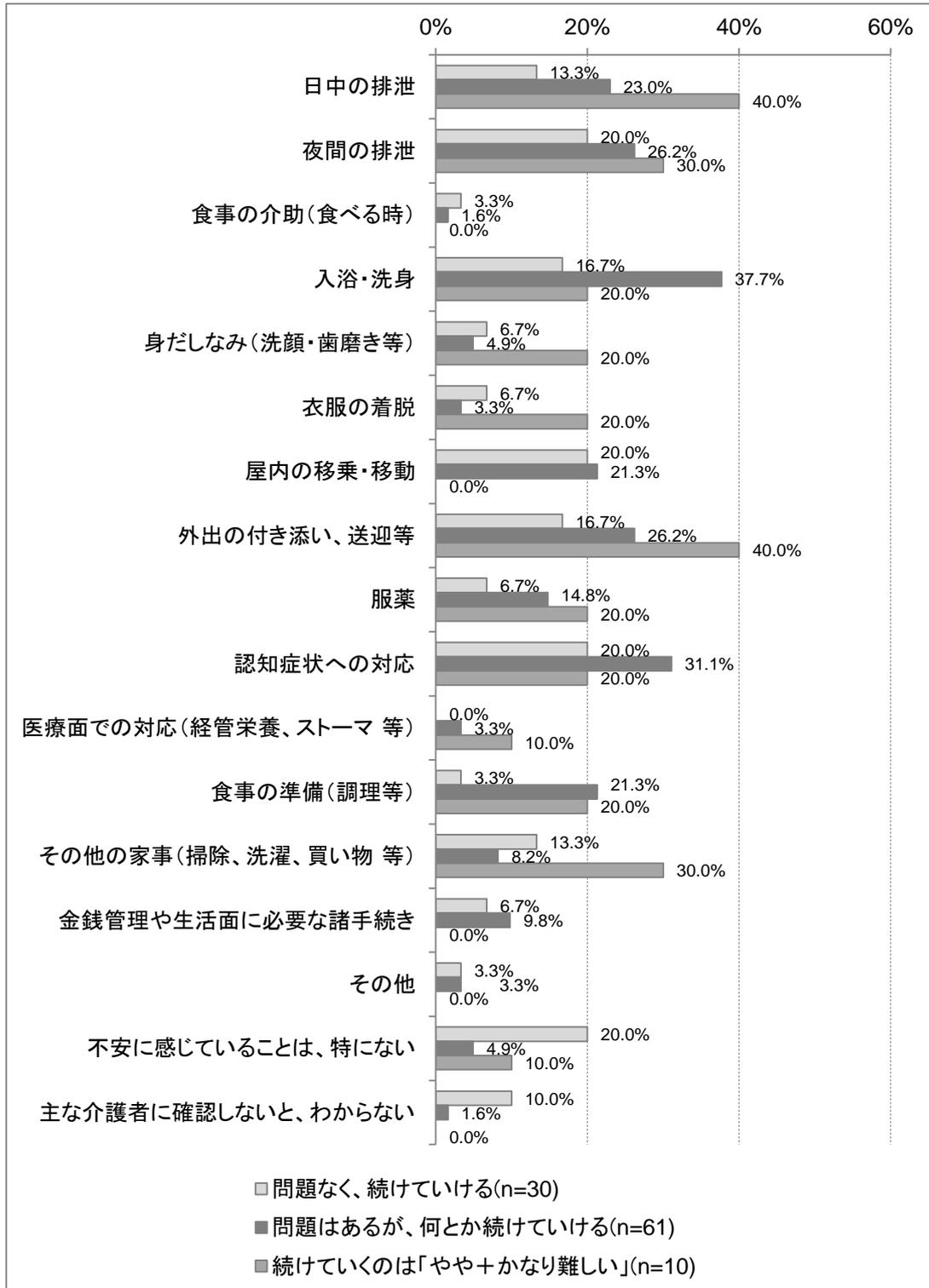
図表 2-8 認知症自立度別・主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



【就労継続見込み別】

就労継続見込み別にみると、問題なく、続けていける人では、いずれの項目でも2割以下となっています。一方、問題はあるが、何とか続けていける人では「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が3割を超えており、続けていくのは「やや+かなり難しい」人では「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が4割となっています。

図表 2-9 就労継続見込み別・主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）
（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



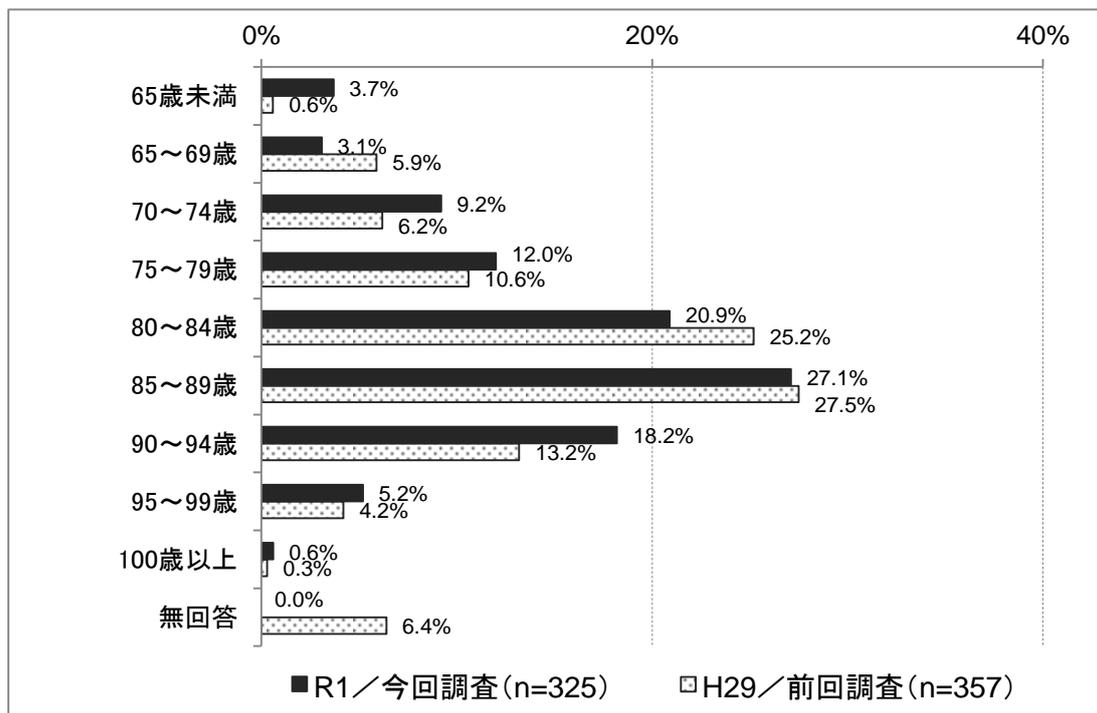
3 要介護認定データ

(1) 年齢

年齢は、「85～89歳」が27.1%と最も高く、次いで「80～84歳」が20.9%となっており、75歳以上が全体の84.0%を占めています。

前回調査と比較すると、「80～84歳」が4.3ポイント減少し、「90～94歳」が5ポイント増加しています。

図表 3-1 年齢

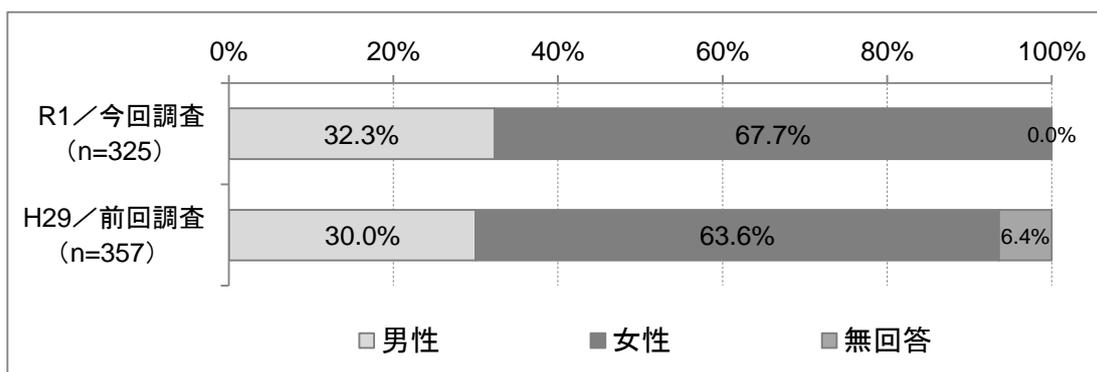


(2) 性別

性別は、女性が67.7%と高く、男性が32.3%となっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の傾向となっています。

図表 3-2 性別

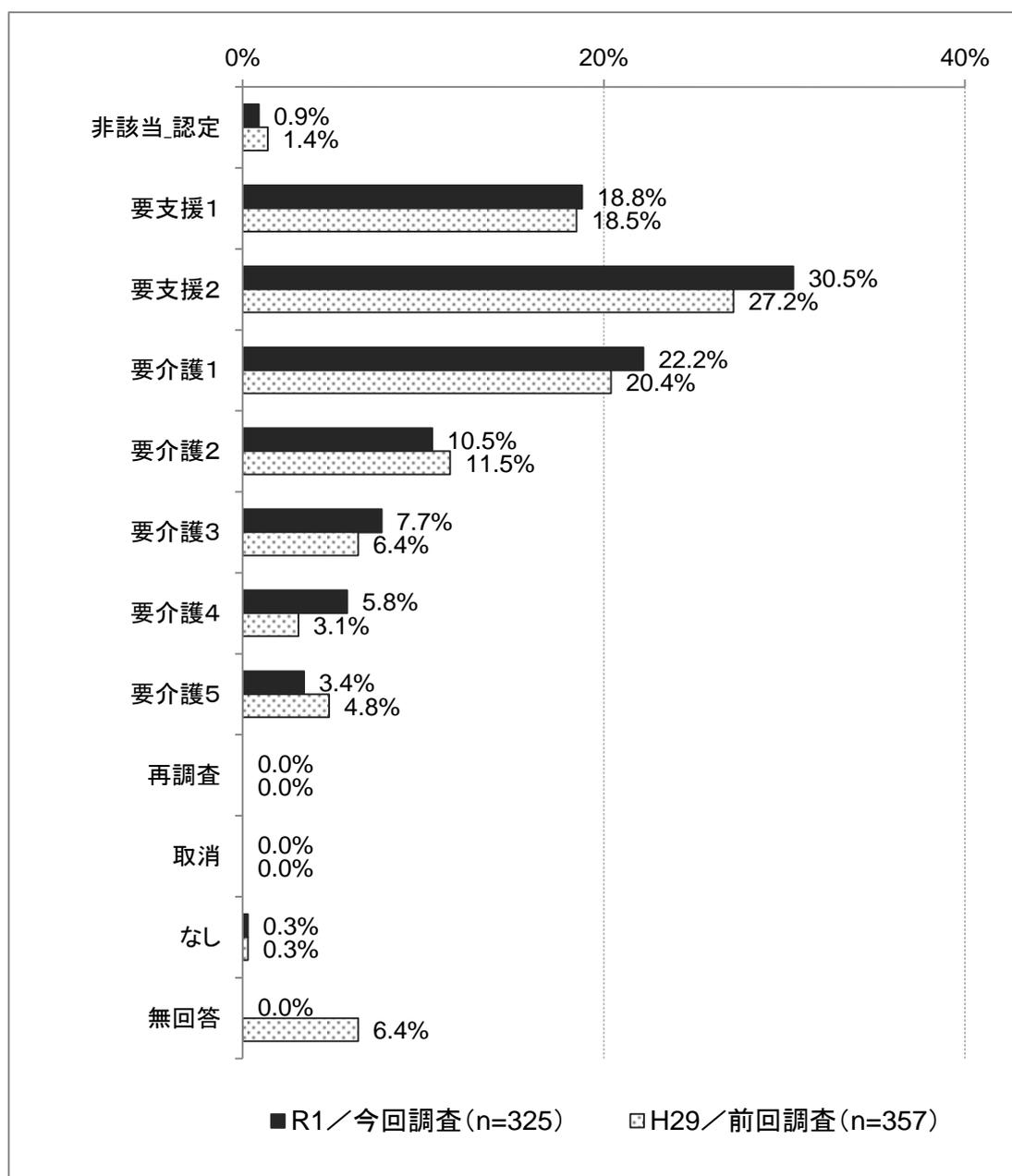


(3) 二次判定結果（要介護度）

要介護度については、「要支援2」が30.5%と最も高く、次いで「要介護1」（22.2%）、「要支援1」（18.8%）となっています。

前回調査と比較すると、「要介護2」と「要介護5」は減少していますが、それ以外の介護度はすべて増加しており、特に「要支援2」が3.3%増加しています。

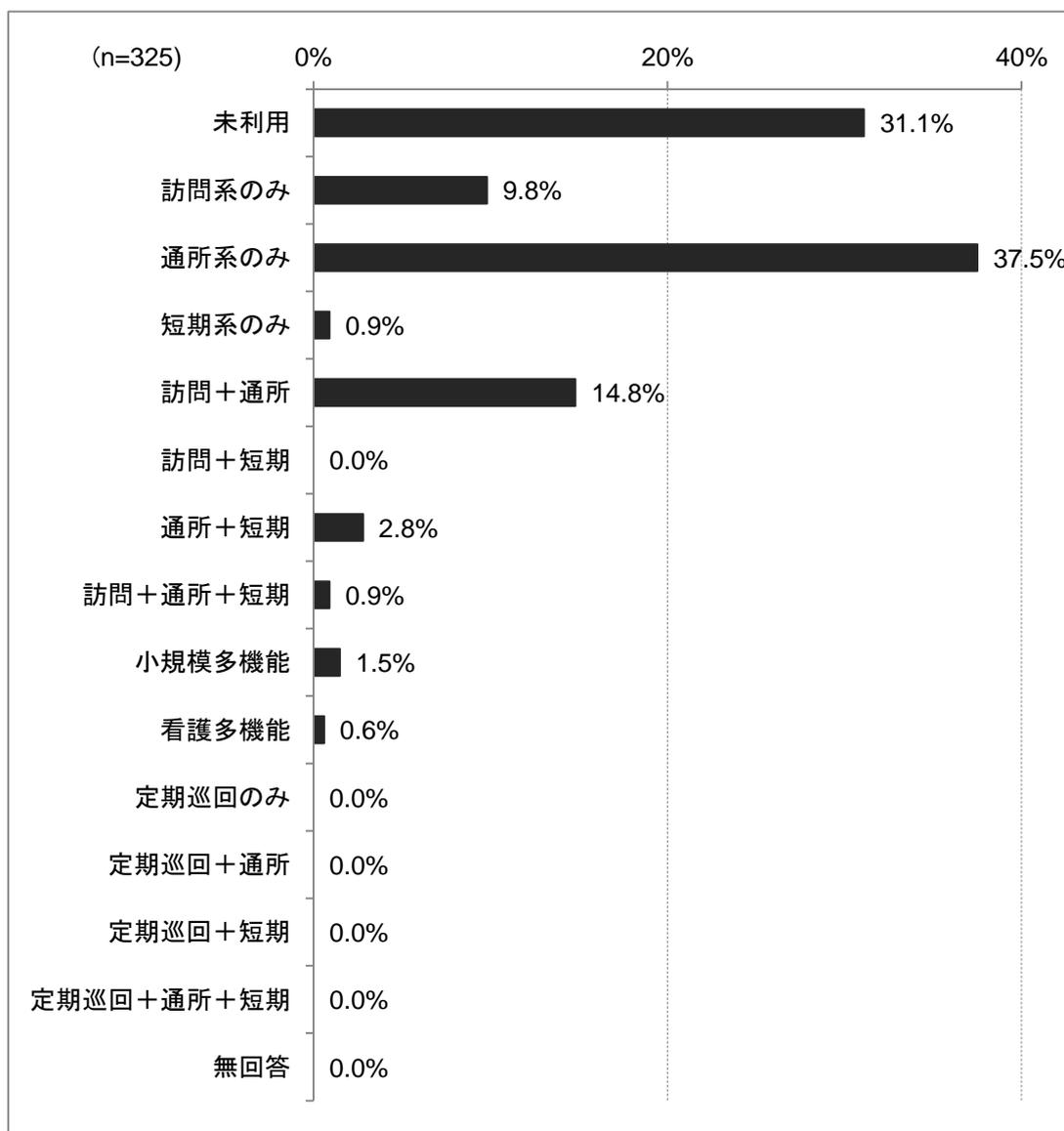
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせについては、「通所系のみ」が37.5%で最も高く、次いで「未利用」(31.1%)、「訪問+通所」(14.8%)となっています。

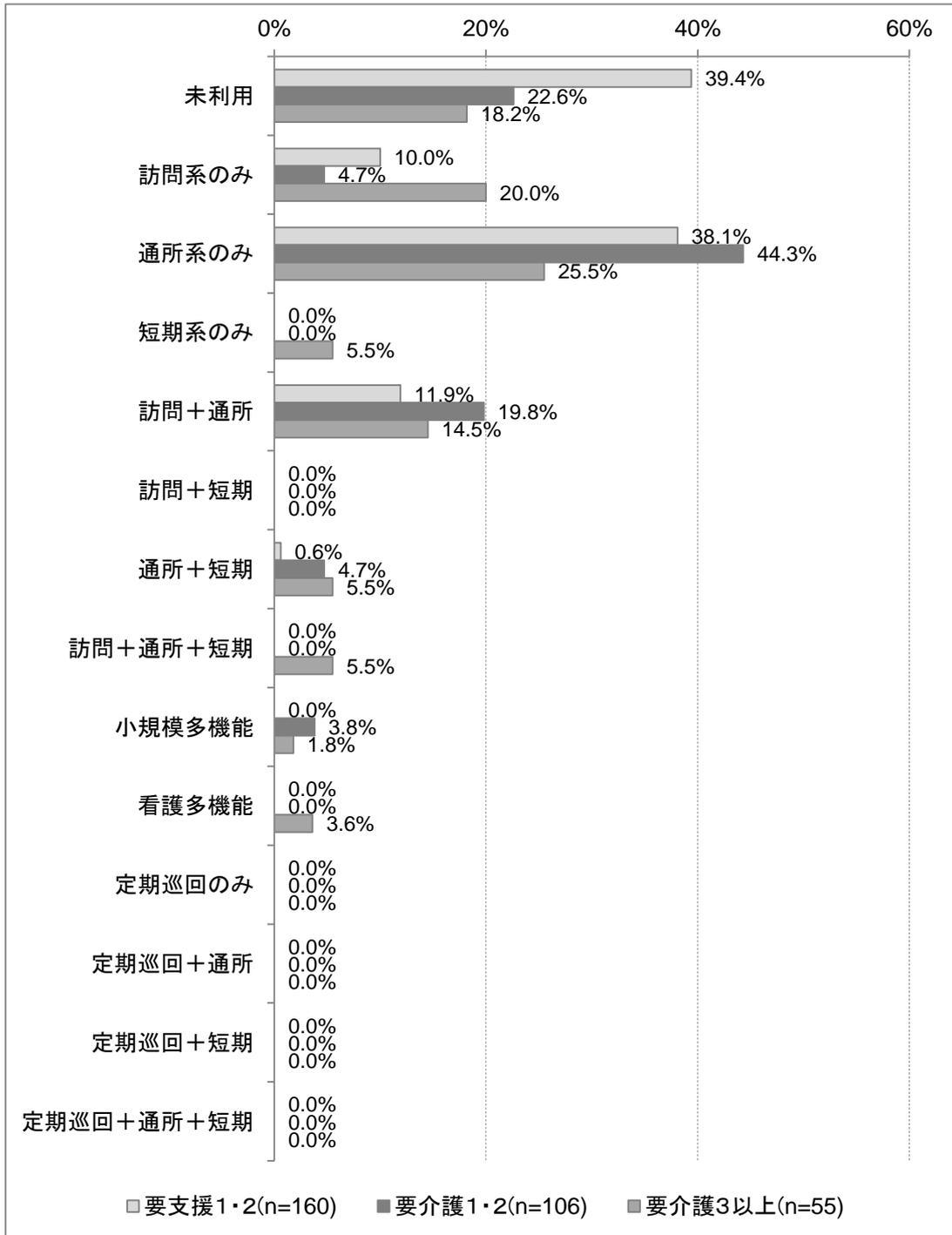
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1・2では「未利用」が最も高く、次いで「通所系のみ」となっています。要介護1・2では、「通所系のみ」が最も高く、次いで「未利用」、「訪問+通所」となっています。要介護3以上では、「通所系のみ」が最も高く、次いで「訪問系のみ」となっています。

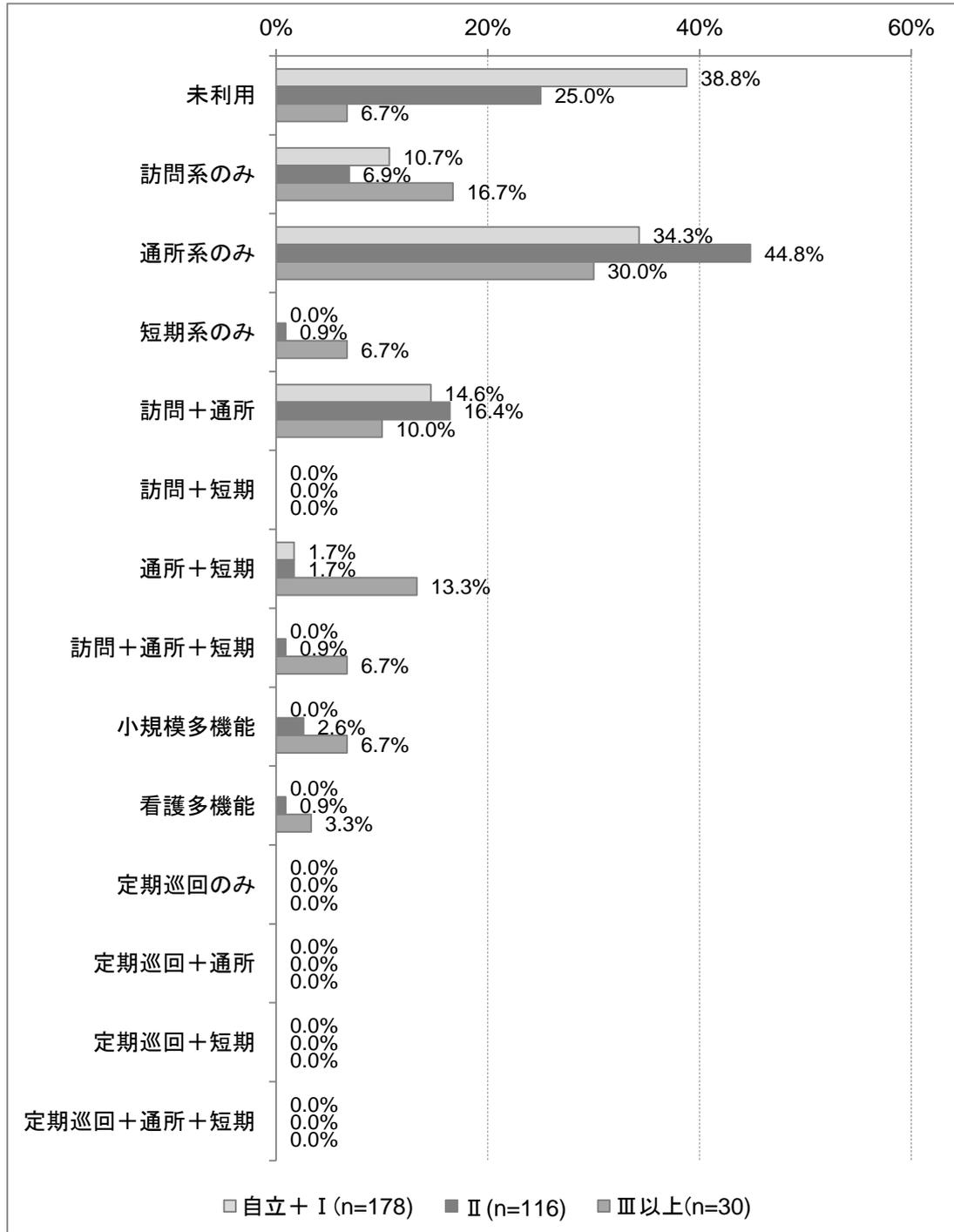
図表 3-5 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別】

認知症自立度別にみると、自立+Ⅰでは「未利用」が最も高く、次いで「通所系のみ」となっています。自立度Ⅱでは、「通所系のみ」が最も高く、次いで「未利用」、「訪問+通所」となっています。自立度Ⅲ以上では、「通所系のみ」が最も高く、次いで「訪問系のみ」となっており、また、「通所+短期」、「訪問+通所+短期」、「小規模多機能」の利用者もややみられます。

図表 3-6 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



＜サービス利用の組み合わせの簡略化＞

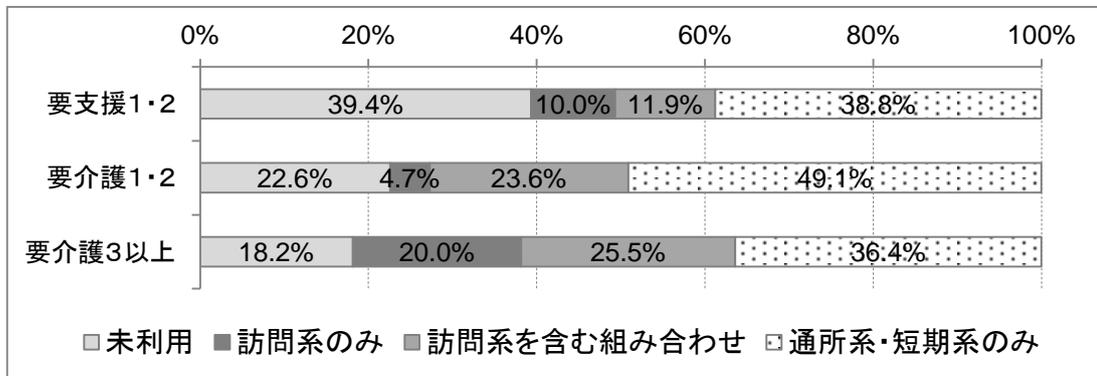
サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」、レスパイト機能をもつ「通所系」及び「短期系」のみ、その2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類

【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1・2では「未利用」(39.4%)が最も高くなっていますが、サービス利用の組み合わせでは、「通所系・短期系のみ」(38.8%)が高くなっています。

要介護1・2及び要介護3以上では「通所系・短期系のみ」が最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」となっています。

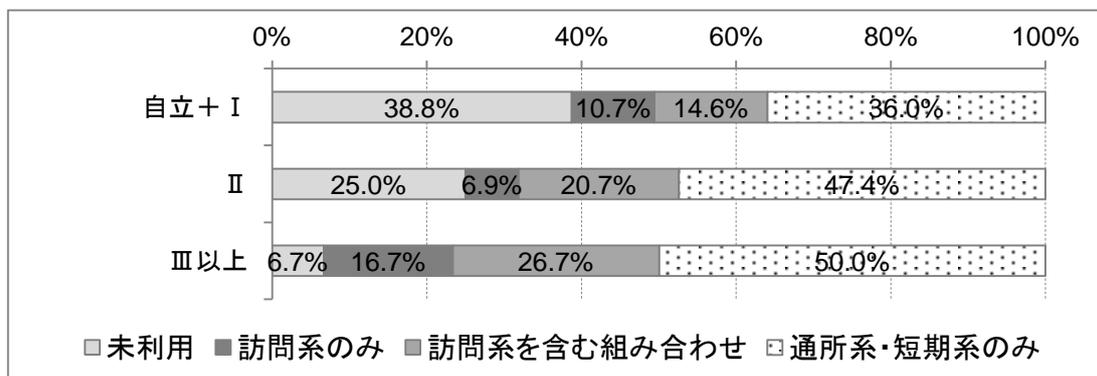
図表 3-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別】

認知症自立度別にみると、自立+Ⅰでは「未利用」(38.8%)、自立度Ⅱ及びⅢ以上では「通所系・短期系のみ」がそれぞれ最も高くなっています。次いで、自立度Ⅲ以上では「訪問系を含む組み合わせ」、「訪問系のみ」の順となっています。

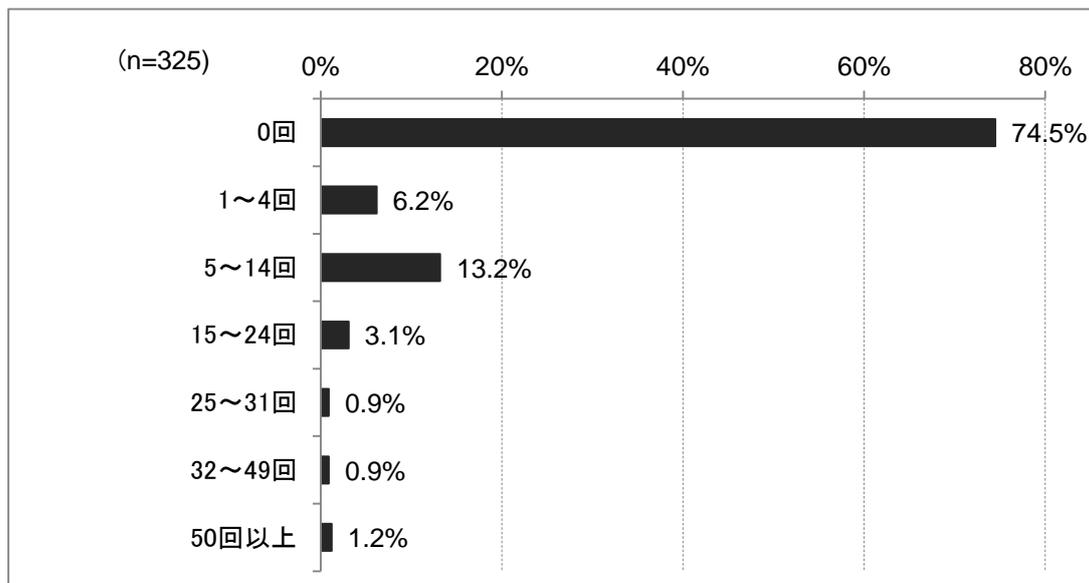
図表 3-8 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

訪問系サービスの合計利用回数については、「0回」が74.5%と最も高く、その割合は突出しています。利用者の中では「5～14回」(13.2%)が高く、次いで「1～4回」(6.2%)、「15～24回」(3.1%)となっています。

図表 3-9 サービスの利用回数（訪問系）

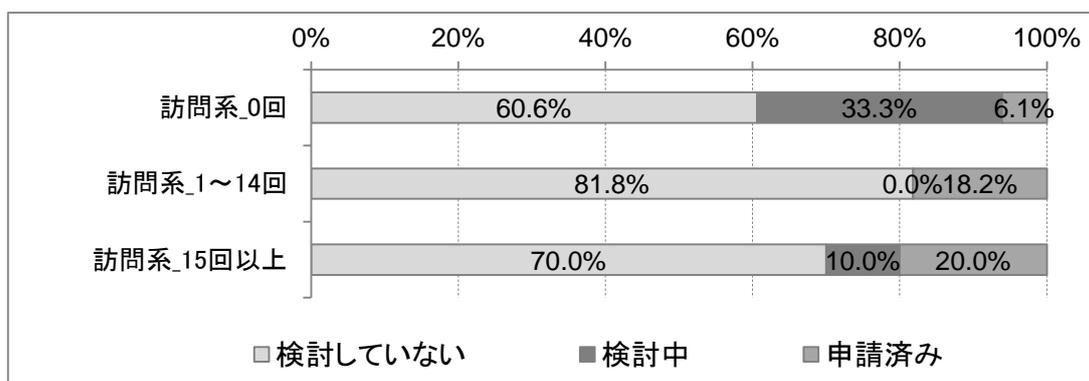


【訪問系サービス利用回数別】

施設等検討の状況を訪問系サービス利用回数別にみると、いずれの訪問回数においても「検討していない」が最も高くなっており、特に訪問系_1～14回では8割を超えています。

また、訪問系サービス利用をしていない人で、「検討中」の人は33.3%を占めています。

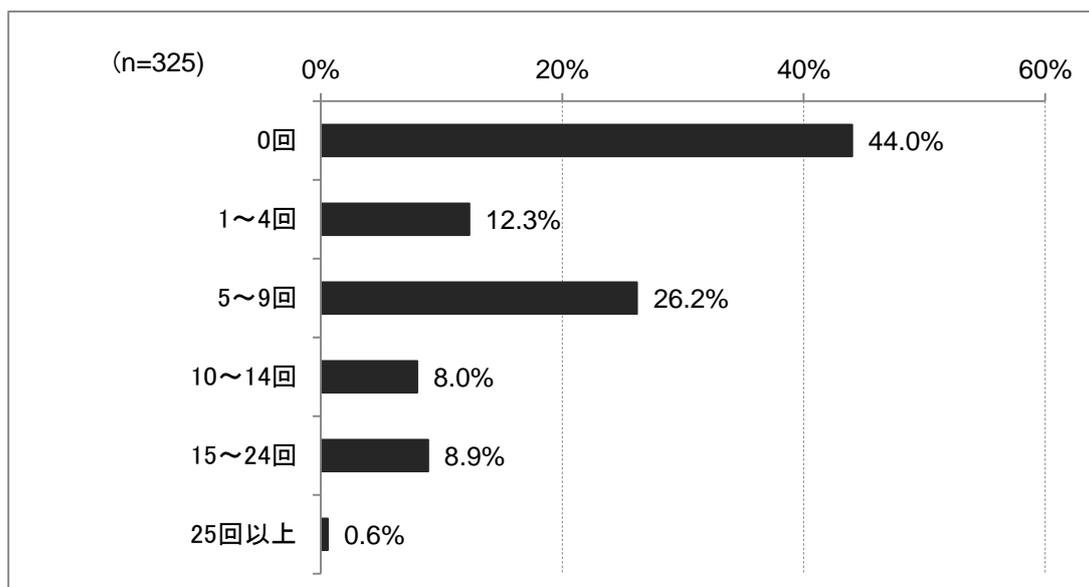
図表 3-10 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

通所系サービスの利用回数は、「0回」が44.0%と最も高く、次いで「5～9回」(26.2%)、「1～4回」(12.3%)となっています。

図表 3-11 サービスの利用回数（通所系）

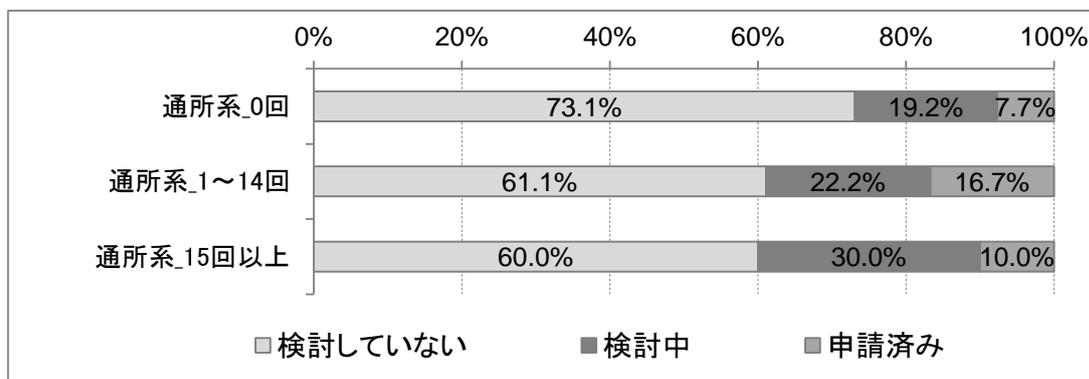


【通所系サービス利用回数別】

施設等検討の状況を通所系サービスの利用回数別にみると、いずれの訪問回数においても「検討していない」が最も高くなっています。

また、通所系サービスの利用回数が多いほど施設等を「検討中」の割合は高くなっており、0回では19.2%、1～14回では22.2%、15回以上では30.0%となっています。

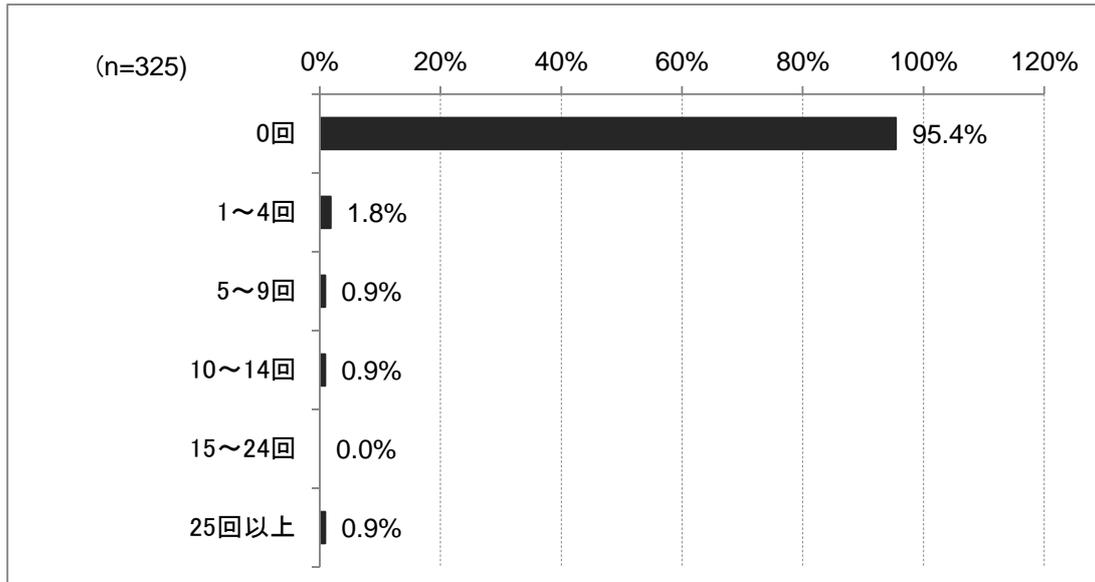
図表 3-12 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

短期系サービスの利用回数は、「0回」が95.4%と最も高く、その割合は突出しています。利用者の中では、「1～4回」(1.8%)が最も高くなっています。

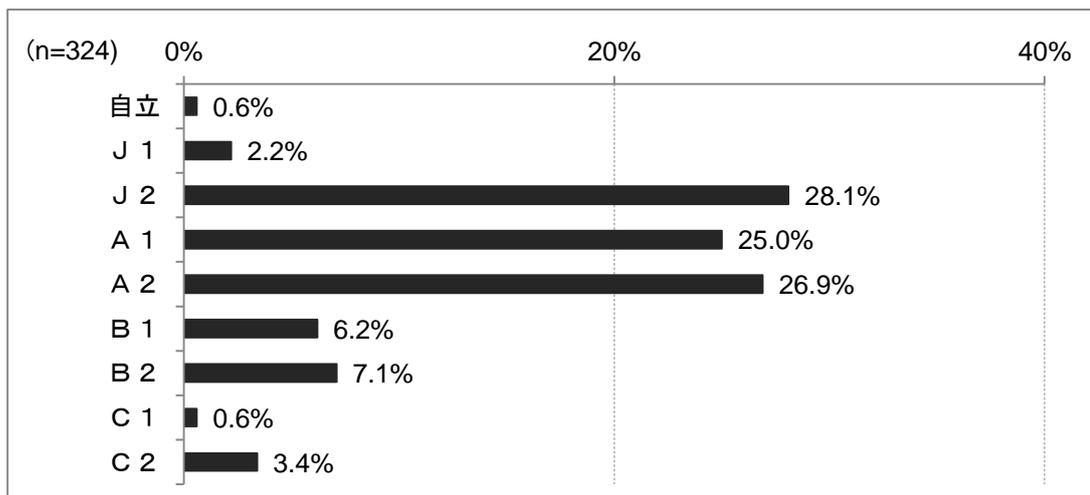
図表 3-13 サービスの利用回数 (短期系)



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度については、「J2」が28.1%と最も高く、次いで「A2」(26.9%)、「A1」(25.0%)となっています。

図表 3-14 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度については、「I」が29.0%と最も高く、次いで「自立」(25.9%)、「II b」(18.2%)、「II a」(17.6%)、「III a」(7.4%)となっています。

図表 3-15 認知症高齢者の日常生活自立度

